

雲南市総合戦略マネジメントシート 〈平成29年度実績の評価〉

作成日 平成 30 年 7 月 3 日  
更新日 平成 30 年 8 月 24 日

総合戦略区分	人材の育成・確保	チームリーダー	政策推進課長 熱田勇二
(プロジェクトチーム)	(チャレンジ創生プロジェクトチーム)	関係課	政策推進課、地域振興課、うんなん暮らし推進課、情報政策課、健康づくり政策課、商工振興課、学校教育課、社会教育課キャリア教育推進室

1. 「人材の育成・確保」の基本方針と指標(目標値及び実績値)

総合戦略に定めた基本方針	「キャリア教育」による将来の担い手育成(子どもチャレンジ)、志ある若者の誘致・育成による地域課題解決の推進(若者チャレンジ)、「地域自主組織」による住民主体の地域づくり(大人チャレンジ)の3つのチャレンジを連鎖させ、まちづくりの担い手となる「人材の育成・確保」を図る。								
成果指標(KPI)	地域課題を地域主体で解決できていると感じる市民の割合	単位	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		%	目標	—	50.0	50.0	55.0	58.0	60.0
			実績	45.1	45.4	56.2	39.8		

2. 分野の取組方針と目的・指標(目標値及び実績値)

プロジェクト名	総合戦略に定めた取組方針								
	目的(対象・意図)								
	成果指標(KPI)	単位	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
プロジェクト① 質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成	[取組方針] 学校・地域・家庭・NPO等との協働により保幼小中高一貫した多様なキャリア教育の展開と学力向上を図り、将来のまちづくりの担い手を育成する。								
対象	幼保園児	体力、正しい生活習慣を身につける							
	小学校の児童、中学校・高校の生徒	確かな学力を身につける(基礎学力を高める) / 【小学生】ふるさとへの愛着と誇りをもつ / 【中学生】地域課題や地域貢献に関心をもつ / 【高校生】地域課題に対し、主体的に解決策を考え、実践する							
	不登校児童生徒	学校での生活や学びに意欲をもってもらう							
<重要KPI>	A 地域や社会を良くするために何をすべきか考えたことがある中3生の割合	%	目標	—	32.5	36.0	39.5	43.0	46.2
			実績	29.0	32.6	—	73.3		
<重要KPI>	B 地域課題に対し、解決策を考え、実践したことのある高3生の割合	%	目標	—	50.0	55.0	60.0	65.0	70.0
			実績	—	50.0	68.8	70.8		
	C ふるさが好きな子ども(小6)の割合	%	目標	—	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
			実績	94.2	94.6	93.0	92.8		
	D ふるさが好きな高3生の割合	%	目標	—	70.0	72.5	75.0	77.5	80.0
			実績	—	67.9	89.0	90.3		
	E 将来、雲南で働きたい高3生の割合	%	目標	—	46.4	49.8	53.2	56.6	60.0
			実績	—	46.4	57.0	53.7		
	F 学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(小6) 国A	点	目標	—	1.0	1.1	1.2	1.3	1.5
			実績	△ 1.3	△ 2.0	1.5	0		
	G 学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(小6) 数A	点	目標	—	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8
			実績	△ 4.3	△ 1.0	0.5	△ 1.0		
	H 学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(中3) 国A	点	目標	—	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2
			実績	0.7	1.5	1.0	0		
	I 学力調査結果(正答率)が全国平均を上回る(中3) 数A	点	目標	—	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9
			実績	△ 0.5	△ 0.8	△ 3.4	△ 5.0		
	J 教育支援センター登録者のうち学校復帰・進路実現できた不登校児童生徒の割合	%	目標	—	80.0以上	80.0以上	80.0以上	80.0以上	80.0以上
			実績	—	92.8	94.1	100.0		
プロジェクト② 大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成	[取組方針] 本気で学びたい大学生に地域課題解決の現場を学ぶフィールドワークやインターンシップなどの学習プログラムを提供する「雲南コミュニティキャンパス」を開校し、課題解決スキルをもつ人材の育成・確保を図る。								
対象	県内外の大学生	意 地域課題解決スキルを身につける							
	学生を受け入れる市民	図 学生との学び合いの中で課題解決力を身につける							
<重要KPI>	A UCC参加をきっかけにUターンした雲南市出身の学生数	人	目標	—	1	1	2	3	3
			実績	—	0	0	0		
<重要KPI>	B UCC参加をきっかけにIターンした学生数	人	目標	—	2	2	2	2	2
			実績	—	0	0	1		
	C UCC参加をきっかけに雲南市内の地域活動に複数回参画した学生の割合	%	目標	—	25.0	30.0	35.0	40.0	40.0
			実績	—	26.0	45.0	36.0		
	D UCC参加をきっかけに雲南市内の地域活動に複数回参画した学生数(ユニーク数)	人	目標	—	15	18	21	24	24
			実績	—	15	30	31		
	E 大学生と協働で地域課題解決に取り組む市内団体数	団体	目標	—	3	3	3	3	3
			実績	—	3	4	2		
プロジェクト③ 課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出	[取組方針] 中間支援組織や都市圏の社会起業家等と連携し、市内外の志ある若者の育ち合いを促進し、課題解決スキルをもつ若者の育成・確保と課題解決ビジネスの創出を図る。								
対象	市内外の志ある若者	意 ①地域課題解決にチャレンジする							
		図 ②課題解決ビジネスを創出する							
<重要KPI>	A 課題解決ビジネスの創出数・従事者数(事業主含む)(累計)	件・人	目標	—	2・4	4・9	6・15	8・22	10・30
			実績	—	3・7	7・16	11・35		
	B 地域課題解決へチャレンジしようとした人数	人	目標	—	10	10	10	10	10
			実績	—	18	20	28		
	C 地域課題解決にチャレンジし、今後も継続が明確な活動件数	件	目標	—	10	15	20	25	30
			実績	—	10	13	23		

プロジェクト名	総合戦略(H27~H31年度)に定めた取組方針									
	目的(対象・意図)									
プロジェクト④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出	成果指標(KPI)		単位	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
		[取組方針] 専門スタッフやアドバイザーの配置等により、地域産業を支える多様な産業人材の育成・確保や市内事業所の販路開拓支援を進め、新たな産業創出を図る。								
	対象	新事業に取り組む者			意図	起業創業(事業承継含む)、または事業拡大し、事業を軌道にのせる				
<重要KPI>	A	起業創業件数(事業拡大含む)(累計)	件	目標	—	10	20	30	40	50
				実績	5	6	20	38		
<重要KPI>	B	事業承継の成立件数(累計)	件	目標	—	0	3	6	9	12
				実績	—	0	2	5		
<重要KPI>	C	起業創業・事業承継に伴う雇用創出人数(累計)	人	目標	—	10	23	36	49	62
				実績	—	11	34	60		
<重要KPI>	D	販路開拓の新規開拓数(累計)	件	目標	—	1	6	11	21	31
				実績	—	1	24	89		
プロジェクト⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進	[取組方針] 地域自主組織やNPO等と連携した取り組みや積極的な情報発信により、地域課題解決に関心の高いUIターン者や活動実践者を獲得する。									
	対象	課題解決人材 課題解決人材となりうる人			意図	雲南市へ移住する又は雲南市で活動する				
<重要KPI>	A	地域課題解決を志すUIターン者又は市外在住者の人数	人	目標	—	24	25	35	35	35
				実績	5	23	28	37		
プロジェクト⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり	[取組方針] 地域自主組織の法人化や人材育成など活動基盤の充実強化を図り、住民主体の地域づくり活動を促進する。									
	対象	地域自主組織			意図	地域課題解決に取り組みや環境を整える				
<重要KPI>	A	地区計画策定済・策定中の地域自主組織数	団体	目標	—	26	30	30	30	30
				実績	23	25	25	28		
成果指標の測定規格(実績値の把握方法)	プロジェクト① 質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成									
	A・B・C・D・E) 児童・生徒の意識調査 F・G・H・I) 学力実態調査 J) キャリア教育推進室で実数値を把握									
	プロジェクト② 大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成									
	A・B・C・D) 名簿管理・追跡調査 E) 政策推進課で大学の授業としてではなく、大学生主体の課題解決活動に地域も協働で取り組む事例を調査し把握									
	プロジェクト③ 課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出									
	A) 若者チャレンジの活動実績 / B) 幸雲南塾生・ラボアカデミー生の人数(※実践問わず) C) 幸雲南塾生・ラボアカデミー生(OB・OG含む)の実案件数									
	プロジェクト④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出									
	A) 創業支援計画(中小企業庁)に基づく実績値 / B) 支援チームの活動実績(追跡調査) C) A・Bの実績値 / D) 販路開拓アドバイザーの活動実績									
	プロジェクト⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進									
	A) 下記①~⑤の合計 ①幸雲南塾参加者(一般聴講含)のうち市内で地域課題解決にチャレンジしようとするUIターン者又は市外在住者数【幸雲南塾申込フォームにより実績値把握】 / ②起業創業・事業承継したUIターン者又は市外在住者数【創業支援計画(中小企業庁)に基づく実績(該当者へ聞き取り)】 / ③地域自主組織の担い手となったUIターン者数【地域づくり応援隊事業の実績(開始者の人数)】 / ④UIターンしまね体験事業の開始者数【UIターンしまね体験事業の実績】 / ⑤その他体験事業によるUIターン者数【就農サポート事業、介護人材確保事業など④以外の体験事業の実績】									
プロジェクト⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり										
A) 地域自主組織へ聞き取り調査										
主要事務事業	プロジェクト① 質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成									
	キャリア教育推進事業(NPO法人との協働によるキャリア教育の推進)、教育魅力化推進事業、中高生の！幸雲南塾事業、幸雲南塾inさんべ事業、「夢」発見ウィーク事業、キャリア教育推進のためのカタリバ体験事業、UNNAN学びサポート事業、学力育成強化事業(スーパーティーチャー活用事業)、郷土・伝統・文化推進事業、教育支援センター運営事業									
	プロジェクト② 大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成									
	コミュニティキャンパス推進事業、大学連携事業									
	プロジェクト③ 課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出									
	課題解決型人材育成・確保事業、ノウハウ移転推進事業、地域医療人材の誘致・育成事業									
	プロジェクト④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出									
起業創業・経営支援事業、雲南市産品販路拡大事業										
プロジェクト⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進										
UIターンしまね地域づくり活動体験推進事業、UIターンしまね産業体験推進事業、UIターン介護人材確保事業、アグリキャンパス事業、シェアオフィス調査研究事業										
プロジェクト⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり										
持続可能型地域推進事業、地域づくり応援隊配置事業										

### 3. H29年度事務事業の総括

《人材の育成・確保》

プロジェクト名	取り組んだ事務事業の総括
① 質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成	<p>○＜高校生＞ 教育魅力化推進事業(教育魅力化CNの配置や各校における特色ある教育活動)等により、地域に対する関心・貢献意欲は年々向上している。【地域課題に対し、解決策を考え、実践したことのある高3生の割合 70.8%(前年68.8%)】</p> <p>○＜中学生＞ 『夢』発見プログラムの集大成に位置付ける幸雲南塾inさんべ事業の参加率向上に向け、夢発見ウィーク等のプログラムとの関係性を明確化し保護者・生徒へのアプローチ等を強化した結果、大幅な参加率向上につながった。【幸雲南塾inさんべ参加率 46.6%(前年23.6%)】</p> <p>○＜小・中学生＞ UNNAN学びサポート事業等により、地域において夏休み等を活用した学習の場づくり設置に対する機運が高まりつつある。【実施地域数等 小:7地域(学習)、25地域(体験) 中:2校区(学習)】</p> <p>○＜学力向上＞ 算数や国語が「好き」、「授業がよくわかる」と答えた児童・生徒の割合が全国平均より高くなっている。(「授業がよくわかる」小学校5.6ポイント、中学校2.7ポイント以上全国値より高い)</p> <p>○＜不登校対応＞ 教育支援センター運営事業は、新たな施設開所から3年が経過し運営ノウハウの蓄積による安定的な運営を図ることができ、学校復帰率も高い水準を維持できた。【登録者の翌年度当初学校復帰率 100.0%(前年94.1%)】</p>
② 大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成	<p>○26大学等・延べ125人の学生を受入れた。参加満足度は高く31名が複数回参加した。(継続して関わりたい学生の割合89%)、</p> <p>○継続して関わりたい学生たちの拠点「雲南フィールドステーション」が学生達により開設された(大東地内)。島根大学のサテライトキャンパスとしても位置付けられている。</p> <p>○市内高校と連携し卒業生への働きかけを強め、本年度も本市出身の学生が9名参加した。(H28:10名)</p> <p>○島根大学と協議が整い、H29年度より一部プログラムで単位取得が可能となった。</p> <p>○地域を変革できるリーダー層の育成プログラムと、U.C.C参加を契機に雲南市に就職・定着をイメージできる企業インターンシップに取り組んでいく必要がある。</p>
③ 課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出	<p>○幸雲南塾では、10組・27名を伴走支援し、多様な支援者となつたり、生態系ができてきた。事業者や子育て中のお母さんが入塾するなど、チャレンジの裾野が広がってきている。</p> <p>○すでに事業化している塾生には、人的ネットワークや研修機会を提供し、事業価値や地域への成果拡大を積極的にサポートした。これを通じて、都市圏起業家等となつたり、活動の連携や新たな事業モデルも生まれつつある。</p> <p>○医療・福祉分野では、地域自主組織との活動の連携がすすんだほか、事業モデルの拡大や、ショッピングリハビリ、コミュニティナースなど全国他地域への横展開がはじまっている。</p> <p>○全国の先進自治体や都市圏NPOと連携し、都市圏の地方起業を指向する人材ネットワーク構築に取り組み、起業型地域おこし協力隊(1名)の移住につながった。</p> <p>○金融機関等と連携し、若者チャレンジを支える新たな資金調達の仕組み構築を図った。</p>
④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出	<p>○中小企業診断士等による経営相談会(計19件)やセミナー(延べ145名)の開催により、既存事業者の経営サポート体制の充実が図れた(相談窓口の機能強化・ワンストップ化)。</p> <p>○補助金の活用など幸雲南塾との連携も進みつつある。国県支援団体や金融機関との連携を強化し、起業創業しやすい環境づくりを進める。</p> <p>○「平成28年度事業承継に関するアンケート調査」から相談希望事業所へ商工会経営指導員と共に個別訪問、ヒアリングを実施(15事業所)。また、商工会との共催による事業承継個別相談会を開催し、4事業者の参加があった。</p> <p>○雲南フードPJによる全国規模の食品バイヤー向け商談会出展を支援し、8件の販路開拓につながった。ふるさと納税返礼品の充実強化により、新たに71件の出品(販路開拓)が図れた。</p>
⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUターン促進	<p>○介護人材や農業に関心のある人材の確保について、介護事業所のニーズや農ある暮らしへの関心者は増えており、介護人材1名の移住定住に結びついた。</p> <p>○幸雲南塾の取組や卒業生の活動が目され、雲南市に関心をもつ若者等が増え、移住につながっているほか、交流人口や関係人口も拡大している。地域おこし協力隊制度を活用したさらなる呼び込みを行っていくほか、移住者コミュニティ「YOSOMONO会議」と連携した定住支援に取り組んでいく。</p> <p>○幸雲南塾等との連携により「三日市ラボ」の利用は増加している。引き続き新たな情報が得られ、チャレンジの一步を踏み出すことができる空間として利用促進を図る。(シェアオフィス月平均利用席数:7.0席[H29]・6.3席[H28]、コワーキングスペース年間利用者数:276人[H29]・136人[H28])</p>
⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり	<p>○法人制度は、内閣府の有識者会議で報告書が取りまとめられ、総務省では法制度の具体的研究が始まるなど着実に議論が進んでおり、引き続き必要な対策を講じていく。</p> <p>○後継者対策が地域から求められ、世代交代が進む中で様々な課題が生じている。その克服に向け地域と行政の今後のあり方を検討する合同検討会議を設置予定。</p> <p>○取組発表会を広く知る(見本市方式)から深く学べる機会(円卓会議方式)へと見直しを図った。</p> <p>○地域づくり応援隊は、継続分も含め6地区で配置。人材マッチングがうまくいっている地域では一定の効果が出ている一方、人材と地域の狙いが合わず途中交代するケースもあり、第三者によるサポートや定着に向けたフォローアップが課題となっている。</p> <p>○地域福祉推進員を第2層の生活支援CNとし、既存の取組をベースに日常生活上の支援体制の更なる充実・強化を図る必要がある。また、市全体の取組を統括する第1層の生活支援CNIについて平成30年度は波多地区、新市地区を重点指定地域として取組を進める予定。</p>

#### 4. 今後の主な課題とH31年度の取組方針

《人材の育成・確保》

区分	今後の主な課題(H30～H31年度)	H31年度の取組方針
人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や地場企業への人材のマッチング。</li> <li>○意欲ある子ども、若者等への支援充実とその財源確保。</li> <li>○魅力ある就業先の確保と情報発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶総合計画・総合戦略の次期計画の策定にあわせ、人材育成確保戦略(生態系図)の見直しと推進体制の再構築を図る。</li> <li>▶チャレンジを支える財源の安定確保に向けた検討をすすめる。</li> <li>▶地場企業の魅力化を支援するとともに、市内高校の卒業生やU.C.C学生等への継続的な情報発信に取り組む。</li> </ul>
プロジェクト名	今後の主な課題(H30～H31年度)	H31年度の取組方針
① 質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内3高校の定員充足率の向上。 【H29.4:86.4% H30.4:83.8%】</li> <li>○「夢」発見プログラムの深化。</li> <li>○児童生徒の学習意欲の向上。</li> <li>○不登校児童生徒の減少を図る。 【H28:小16人、中37人 H29:小26人、中29人】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶市内高校の寮機能に加え、高校生の学びと成長を高める機能も備えた(仮称)チャレンジハウスの建設をすすめるとともに、市内3高校のあり方について県教委と具体的な協議をすすめる。</li> <li>▶教育支援CNの支援力向上等の強化を図り、各校区、各地域において、『夢』プロ理念の浸透、コアプログラムの確立をすすめる。</li> <li>▶児童生徒の学力向上に向け教員の授業力向上に引き続き取り組む。</li> <li>▶第三の居場所事業等との連携も図りつつ、現状分析に注力し、不登校支援のガイドライン等の策定をすすめる。</li> </ul>
② 大学機関やNPOと連携した課題解決人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雲南市出身大学生へのアプローチ。</li> <li>○長期間、主体的・継続的に関わる学生の確保。</li> <li>○地場企業の大学生求人への掘り起しと人材マッチング。</li> <li>○大学卒業後の継続的な関係性の構築。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶市内3高校と連携し卒業生への働きかけを強めるとともに、高校生の参加促進を図る。</li> <li>▶事業成果の見える化と積極的なPRに努め、意欲ある大学生や大学機関の確保に取り組む。</li> <li>▶意欲ある学生を呼び込むための支援制度の構築を図る(JAL・JR等との連携)。</li> <li>▶地場企業へのインターンシッププログラムを確立する。</li> </ul>
③ 課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の持続性を高めるためのビジネスモデル化への対応。</li> <li>○ビジネススキルの高い人材の確保。</li> <li>○幸雲南塾生の活動への地域や市民の理解促進と支援の拡大。</li> <li>○金融機関や産業支援機関等との連携強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶中間支援組織や都市圏企業・NPO等と連携し、地域課題を解決する事業モデルの創出拡大、市内全域への成果波及に努める。</li> <li>▶首都圏の地方起業に関心ある人材の誘致・定着に向けた取組を一層すすめる。</li> <li>▶金融機関等と連携した支援体制の充実強化を図る。</li> </ul>
④ 産業振興センターの機能強化による新たな産業創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内企業・事業所の経営安定化及び事業拡大への対応。</li> <li>○第三者承継を必要とする事業所と起業創業・事業承継に関心のある若手人材とのマッチング。</li> <li>○外貨獲得(特に都市圏への販路拡大)及び地域内経済循環の促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶国県支援団体や金融機関等との連携を強化し、起業創業や事業承継、新たな商品開発やサービスの創出、既存事業を含めたイノベーション等を推進する。併せて、事業者ニーズにマッチした支援を継続的に実施する。</li> <li>▶複数の企業で構成する企業グループを中心とした販路拡大の取組を積極的に支援し、雲南ブランドの認知度向上、新たな販路の獲得を目指す。</li> </ul>
⑤ 地域やNPOと連携した課題解決人材のUIターン促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○雲南市の魅力や取組の効果的な発信。</li> <li>○地域や企業との連携による情報収集や発信。</li> <li>○地域や雲南市の課題解決に必要な人材の明確化と人材誘致。</li> <li>○雲南市に関心をもつ若者の積極的な誘致と定着支援。</li> <li>○起業型地域おこし協力隊制度の促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶人材確保が困難な職種へのUIターン就職の促進に取り組む。</li> <li>▶地域や雲南市が求める人材を都市圏から呼び込むための人材募集の機会や方法の充実を図る。</li> <li>▶地域おこし協力隊制度を有効活用し、専門性が求められる分野の人材確保に取り組めるよう環境を整える。</li> </ul>
⑥ 地域自主組織の活動基盤強化による住民主体の地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域自主組織の法人制度の創設。</li> <li>○後継者の育成・確保。</li> <li>○地域に密着した生活課題への対応。</li> <li>○様々な課題に対応していくため、地域、行政、地域と行政において地域づくりの方策を見出す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶法人制度については、国での検討動向を踏まえて必要な対策を講じる。</li> <li>▶後継者対策は、組織力の向上策と合わせて取組を進める。</li> <li>▶外部人材を有効活用し、地域の内発力を高める。</li> <li>▶持続可能な地域づくりに向け、地域支え合い体制の構築をすすめる。</li> </ul>